

今年(2019年)は台風15号、19号により、関東甲信越地方から東北地方にかけて甚大な被害が発生し、透析医療に大きな影響がありました。昨年も西日本豪雨災害、台風21号、24号によって透析施設の浸水や広域にわたる長時間停電、断水が起きました。したがって、透析施設は台風や前線の停滞に伴う大雨や強風によるライフラインの長期途絶に対し、地域社会の一員として対応が求められる時代となりました。

本緊急企画では、ライフラインおよび情報連絡網の確保、電子カルテや患者情報の管理、各透析治療における対処法、昨年の台風24号による広域停電の経験などを取り上げ、実際に災害を経験されたエキスパートの先生方に執筆いただきました。これまで想定していなかった風水害によるライフラインの長期途絶に対し、透析施設としてどう対処すればよいのか、示唆に富んだ具体的な意

見が書かれていますので、ぜひとも参考にしていただければ幸いです。

来年、東京2020オリンピック競技大会が7月24日～8月9日にかけて、史上最多の33競技・339種目が42の競技会場で開催されます。パラリンピック競技大会は8月25日～9月6日にかけて、22競技・540種目が21の競技会場で実施され、史上最多の4,400人の選手が参加します。台風等によるライフラインの途絶なく、成功裡に終了することを祈りたいと思います。

最後に限られた時間のなか、快く執筆にご協力いただいた先生方に心よりお礼申し上げます。

(加藤明彦)

※なお、本号では特集「透析生活をサポートする一各職種ができることと限界」を併せて掲載した。

2019年(Vol.35)特集のご案内

- No.① 透析患者の糖尿病管理の新展開
- No.② 透析患者における電解質・酸塩基平衡異常—透析液を含めて
- No.③ 慢性腎臓病の看護実践をリフレクションする
- No.④ 透析患者の残腎機能
- No.⑤ 透析医工学の最前線
- No.⑥ AKI診療のエビデンスと課題
- No.⑦ CKD患者におけるがん化学療法—透析患者を中心に〔増刊号〕
- No.⑧ 既存のガイドラインを透析患者にどう活用するか

- No.⑨ 標準血液透析を再考する—最良の透析処方・管理技術とは
- No.⑩ 在宅血液透析の勧め—円滑導入のためのノウハウ
- No.⑪ その人らしい生活を支える透析看護
- No.⑫ 透析患者の支持療法
- No.⑬ ・長期にわたる停電・断水への対策—大型台風による広域災害
・透析生活をサポートする—各職種ができることと限界

(既刊は○)

臨牀透析® Vol.35 No.13

©2019年12月10日発行
定価：(本体2,600円+税)

年間予約購読は前金にて弊社あるいは書店宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、弊社または書店までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail dialysis@nmckk.co.jp

URL <http://www.nmckk.jp>

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 シナノ印刷株式会社

・Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2019, Printed in Japan

・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(☎03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所／株式会社 文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1 電話(03)3814-8541